

# 「田んぼダム」の普及拡大を目指します！

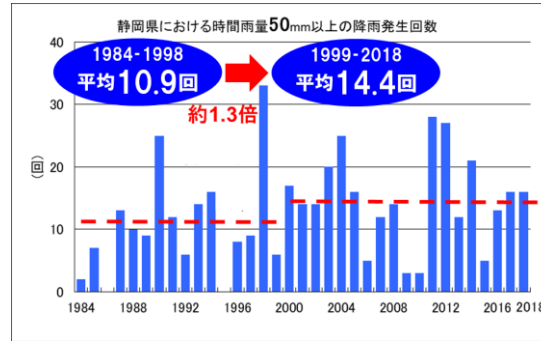
## 1 「田んぼダム」が必要なわけ

### ●大雨による水害が増えています

- 近年の気候変動により水害が頻発化・激甚化しています。（1時間50mm以上の降雨がここ20年間で1.3倍に増加）
- 大規模な水害や浸水被害も頻発化していますが河川改修には膨大な時間と費用がかかります。

### ●「流域治水」の取組が始まりました

- 河川改修のようなこれまでと同じ取組だけでは、近年の激しさを増す水害に対応しきれない場面が出てきました。
- そこで、流域のあらゆる関係者が協力して被害を最小限に抑えるための「流域治水」の取組が始まりました。
- 農業分野では、田んぼの貯留機能を活用した「田んぼダム」の取組が広がっています。



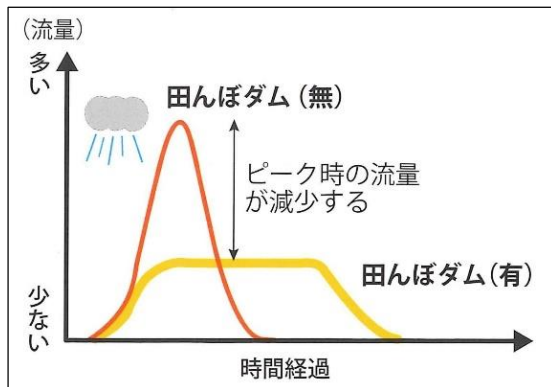
取組状況	水田面積	田んぼダム	全水田比
全国	2,379,000 ha	40,000 ha	1.7%
静岡県	21,700 ha	13 ha	0.06%

【「田んぼダム」の取組状況】

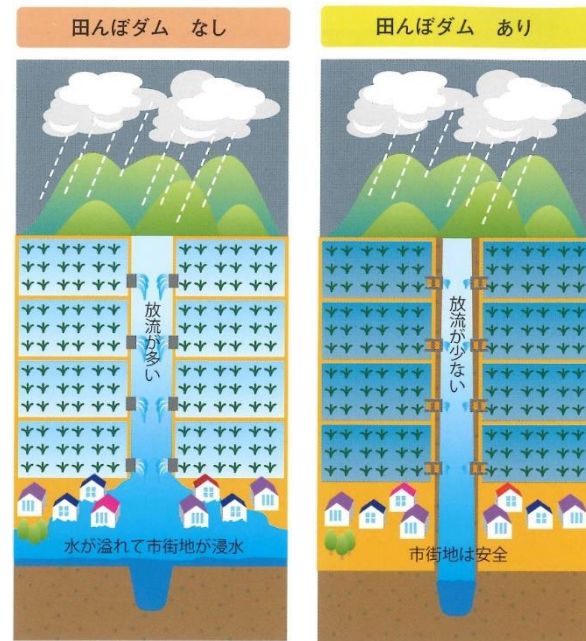
## 2 「田んぼダム」とは

### ●水田の排水口に流出量を調整する調整板などを設置し、人為的に田んぼの雨水貯留効果を高める取組です

- 田んぼがもともと持っている「水を貯める機能」を有効活用し、大雨が降った時、一時的に田んぼに雨水を貯めることで、排水路や河川の水位が急に上がることを抑える取組です。



「田んぼダム」の一時貯留により、大雨ピーク時の排水路や河川への流出量を減らします。

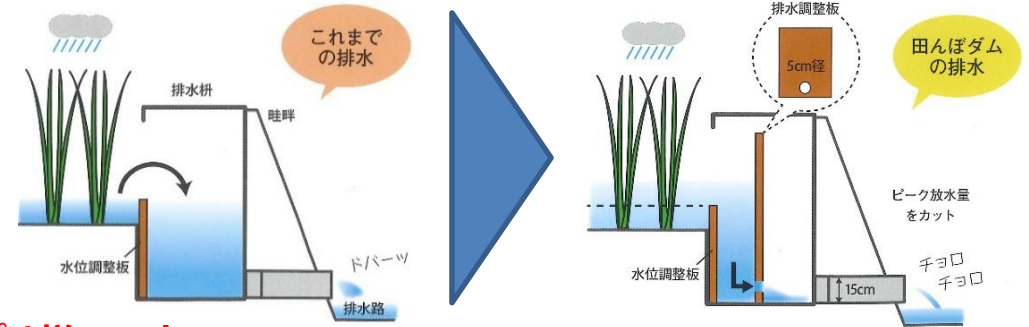


雨水を一時的に田んぼに貯めて放流を少なくすることで水路の増水を抑え、水害を減らします。

## 3 「田んぼダム」の仕組みと種類

### ●雨水を一時的に田んぼに貯めて、排水路への放流量を少なくします

- 田んぼの排水口を絞ることによって、排水される水の量を小さくします。
- 一時的に田んぼに貯められた水は、少しずつ排水路に流れます。  
※田んぼに貯め続けるわけではありません
- こうすることで、排水路に一気に流れ込む水の量を減らし、急な水位上昇を抑えます。



### ●タイプは様々です

- 排水口の形状により、タイプが異なります。
- 通常の水管理以外に手間がかからないようになっています。
- 絞られた排水口の穴は一般的に5cm程度です。

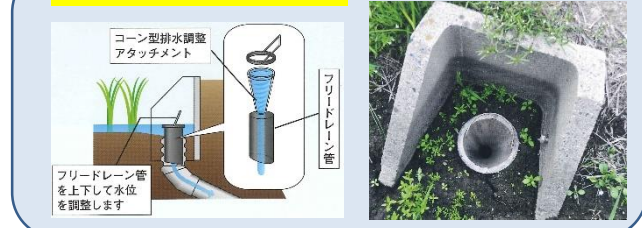
#### 立板式



#### 落蓋式



#### フリードレーン式



## 4 「田んぼダム」は大丈夫？

- Q. 生育や収量に影響があるのでは？  
A. 水深は最大十数cmであり、影響はありません。ただし、田植え直後は苗の大きさに留意する必要があります。
- Q. これまでよりも手間がかかるのでは？  
A. 貯水のため畦の管理が必要です。畦塗と草刈は必要です。（除草剤は使わない）
- Q. 導入している農家の意見は？  
A. 営農への支障の声は聞かれませんが、代掻き時、稲わらが詰まりやすいといった声は聞かれるため気を付ける必要があります。

### ●「田んぼダム」は営農優先の取組です

### ●皆さんの不安を少しでも解消するため、県において実証実験を行います (R4)